

株式会社セキコーポレーション

～海外を中心に展開しているから見えるものがある～

多摩大学 経営情報学部
大八木 雄真 (3年)

今回は、東京都八王子市で精密機構部品のプレス加工を営む株式会社セキコーポレーションに伺いました。当社は、主に、自動車やデジタルカメラ等に使用されている金属部分の金型設計・製作から組み立てまで行なっている会社です。

1948年に東京都の白金で創業、1961年に工場拡張の為本社と工場を八王子市に移転しました。国内工場は現在1982年に開設された甲府工場のみで、1987年から取引先大手メーカーの海外進出に伴い、シンガポール、マレーシア、中国、タイに工場を開設し、現在は海外での製造が中心となっています。今年の9月には中国に2カ所目の生産拠点を設立しました。



取材風景



本社玄関

セキコーポレーションの強みと新しい製造業に向けて

金属プレス加工業界は、大手企業から中小企業まで多くの企業があり、部品の種類やサイズなどで細分化されています。それでも、同じ分野の企業はかなり存在します。金属プレス加工には、話が持ち込まれた時点で製品の図面が既にある場合と、製品イメージだけで詳細な図面が決まっていない場合があります。

当社は、図面が決まっていなくても、お客様の要望や図面の設計変更をスピーディーに対応する力があり、お客様と一緒に製品をつくりあげることが得意としています。その中で、できる限りお客様の要望に「NO」と言わずに、迅速に対応してきた結果が、現在の信用に繋がっていき、強みになっていると思われました。

また、経営方針の一つに「新しい技術と独創性を重視しチャレンジ精神をもって技術の進展に挑戦する。」とあります。企業全体としてチャレンジする環境づくりを行なっていました。実際に山木社長は、「失敗しても OK、チャレンジしない方が悪であるという環境づくりをしている」とおっしゃっていました。

私は、チャレンジする社風である事によって、社員一人一人が高い意識を持って業務に取り組み、個人の成長に繋がると思いました。また、社員の個々の成長が企業の成長にも繋がっていくと思いました。失敗しても OK という安心感があれば、一杯頑張ってみようと思う人も多いのではないかと思いました。

また、将来の研究開発に向けてかなり力を入れている企業です。先行投資をして、守備領域を増やすことはどの企業でも行なっていますが、「過去との決別」をテーマに現在当社が持っている技術を疑いながら、さらに技術のアップデートを行なっています。自社の技術を継承していくという事はよく耳にしますが、今ある技術を疑って、さらに技術の向上を目指して行くという考え方は、初めてで驚きでした。

技術が進む中で、現在日本が取り残されているのは、今ある技術よりも良い技術を探していない事が原因であるとお話に、とても納得しました。新しい技術がもの凄いスピードで出てきているので、さらなる技術の向上をする為、また将来の製造業を生き抜くためにとても重要な取り組みであると思いました。

コロナと海外事業

海外を中心に事業を展開されているため、新型コロナウイルスの影響についても伺いました。売上面では、もちろん影響は受けましたが、事業の運営に関しては、全く影響はなかったとのことでした。

海外中心の事業を行なう中で、新型コロナウイルスが流行する前からリモート会議など IT 化を進め、海外の工場などは現地の人材で運営が出来ているなど、海外進出している企業の方が新型コロナウイルスの影響を受けにくいと思いました。日本だけで事業展開している企業の方が、むしろ今回の新型コロナウイルスで何も出来ないという状況に陥ったのではないのでしょうか。

当社が展開するアジアには、日本人よりもスキルが高く優秀な人材もオフィスで働いています。アジアの社員も育っていて、技術力はアジアの方が高くなっていることも多く、技術を逆輸入しているケースもあるようです。日本人が今後危機感をもって臨んでいかないと、日本は更に衰退していくと感じました。

私達若い世代はのんびり構えているだけでは大変時代になっていきそうです。そのためには、今の学生生活が大切になってくると思いました。日本にこもって、守りに入っているような人材になってはいけないと思います。



上海工場（プレス設備）

取材をしてみても

大学院を卒業してから大手製造メーカーに勤務し、外資系企業も経験してきた山木社長。奥様のお父様からの事業承継で社長になり5年目。

当社の社員600名のうち、日本人は17%。八王子駅から10分程の閑静な住宅街の中にある当社は、日本型企业ではなく、グローバル企業でした。

今回の取材は、話しやすい雰囲気の中、山木社長の言葉ひとつひとつからエネルギーを感じ、今後もものづくりの世界をリードしていく企業だと感じました。このような素晴らしい企業に伺わせて頂き、肌で感じられたことはとても良い経験になりました。